

湘南高校との僥倖

ペガサス 40 アンドウ アキヒロ
安藤 聡 祐

1. 初めに

私は 20 代まで関西を拠点にプレーを続け、30 代で関東に転職してからは神奈川県リーグに舞台を移しました。40 歳直前に、会社の先輩である田中 敦氏 (60 回生主将) にペガサス 40 にお誘い頂いて以来、神奈川県シニアリーグでお世話になっております。

一見、湘南高校と何の関わりも無い私ですが、40 年以上のサッカー人生の中で、節目節目に不思議な接点を持ちつつ、今日に至っています。

事の起こりは偶然ないし必然であり、全てには理由がある・・・と感じつつ、備忘録として記させていただきます。

2. 高校時代

兵庫県立神戸高校でサッカーに本格参入しましたが、入部してからとんでもないサッカー伝統校ということを知らされました。

- ▶ 大正 2 年、前身の神戸一中時代に創部
- ▶ 全国高校サッカー選手権には、前身の「日本フットボール大会」を含め 25 回出場 6 回の優勝経験
- ▶ 日本サッカー協会の大仁邦彌元会長、三菱重工の細谷一郎氏といった日本代表選手を輩出
- ▶ 日本サッカー殿堂のジャーナリスト 賀川浩氏も大先輩

の歴史にまずは驚愕。我々の代は選手権最終出場から 12 年と一回りしてしまったこともあり、平日の練習はともかく、週末には偉大なる OB に囲まれ、今では考えられないしごきの嵐でした。1 年の夏合宿ではあまりの辛さに、夜中に脱走を試みつつも、熟睡してしまっ朝練を迎えた という自分だけの伝説もあります。

とは言え、滝川第二・神戸弘陵といった私学勢には歯が立たない状況でもあり、公立進学校にとっては全国大会など夢のまた夢 と思っていた高校 2 年、第 67 回 高校サッカー選手権において、湘南高校の名前を目にしました。

我々以上の進学校が、旭・日大藤沢・藤沢西・鎌倉・桐蔭学園といった並み居る強豪を突破して全国に進出したこと自体も空前絶後でしたが、上牧・愛知といった関西の強豪に競り勝ち、ベスト 16 に進出したことに、我々周辺も大いに勇気づけられ、ついでに勘違いをしたことを覚えています。

自分たちもやれば出来るかも、と、3 年生時は選手権まで残って頑張りましたが、選手権予選はベスト 8 で神戸弘陵に涙を飲み、11 月で高校サッカー生活は終了。ちなみに、選手権まで残った 5 名の浪人率は 6 割に達し、その中に自分も含まれていた次第でした。

3. 大学時代

一浪の後、関西のとある公立大学に進学しました。今で言う中2病気味の自分は、バブル時代の華やかな大学生活に背を向けつつ、サッカー強豪とは程遠い環境の中、体育会で4年間を過ごしました。ほとんどは最下部のリーグでしたが、半期だけ2部リーグに昇格し、レベルの高い環境でプレーした経験は、今でも自分の中では財産です。

1回生の頃、夏場に関西地区で開催された総理大臣杯のボールボーイを努めました。メイン会場となった神戸中央球技場（現 ノエビアスタジアム神戸）で行われた2回戦、当時関西では無敵の大阪商業大学に対し、慶応義塾大学が挑む一戦をライン際で観戦。大阪商業大学が押し気味に進めつつも0-0のままで進んだ後半の中盤、自分が担当していたエリアの目の前で、豪快なオーバーヘッドによって大阪商業大学を打ち砕いた慶応義塾大学の選手、それが64回生のエース、田村 直也氏でした。当時の大阪商業大学のDFは、後のJリーガー揃い。その傑物相手にスーパープレーをした選手はどこ出身？ 湘南！？ とパンフレットをめくった記憶があります。

ちなみに自分の大学は、総理大臣杯の関西予選の最高は2回戦。だいたいに関西一部の強豪と当たってチンチンに叩きのめされ、暫く心を折られる結果となるため、見ているだけで充分と思っていた大会でした。

4. 青年時代

ちょっと間が開き、2008年度の神奈川県3部リーグで、初めて湘南高校（トトカルチョ湘南）と倉見スポーツ公園で対戦しました。当時36歳の自分が守るゴールに対し、20代の面々が猛攻をしかける中で持ちこたえた前半終盤、FKから巧みなサインプレーで失点。後半早々も豪快に決められて追加点。1点を返したものの惜敗。この敗戦が響き、自分のチームはギリギリで昇格戦を逃しました。ちなみに、この時競い合ったFC Te-Lette offsideの面々は、シニアリーグでも我々とはつばぜり合いをしているオフサイドならびに鎌倉シニアで顔を合わせ、思い出話に華が咲きます。

5. 湘南ペガサス時代

2011年11月6日@足柄上合同庁舎 神奈川県シニアリーグ3部 中沢戦でデビューさせて頂きました。20人を超えるメンバーの中、高校時代を思い出す厳しいシゴキ・・・いや、激励に囲まれ、1試合やり切ったと思わんばかりの激しいアップ。本番の試合は全く楽に過ごさせてもらった挙句、たった一回の参戦で3部優勝の瞬間をフィールドで過ごさせて頂き、誠に光栄でした。この時のチームは、若木 均氏（64回生主将）を始めとした栄光の選手権メンバーを中心として若返りを図った世代で再編成。その下の65回生と合わせ、自分が憧れだった方々と20数年の時を経て共にプレーできた瞬間でもありました。

2012年 神奈川県シニアリーグ2部、個人的には多少不完全燃焼の年でした。最終的には後半終盤の連勝で1部昇格が実現できましたが、9月25日に亡くなられた水上 雅樹 監督に対する関連各位全員の想い、そして矜持が結実した成果と思います。引き続き行われた議長杯では、小田原・秦野・川崎・横浜シニアを撃破し、決勝まで進出。しかし、決勝では

鈴木 中 先生のご観戦の前で、ライバルの鎌倉シニアに 1-4 と惨敗し、神奈川県制覇が出来なかった悔しさの中で終焉を迎えました。

2013 年 神奈川県シニアリーグ 1 部。山本 純弘 監督の元、強豪揃いのライバルに対して苦戦の連続なれど、リーグ戦は 4 位。しかし、2 学年下でチームに加わった高校総体全国制覇 清水東 OB の所賀 貴之氏と松田 庸宏氏が馴染みだした議長杯では 2 年連続の決勝進出。決勝の川崎戦は、出張で鹿児島に向かう飛行機から眺めた綾瀬スポーツ広場において、出場メンバーの奮闘による逆転勝利で神奈川県初制覇。前年度の雪辱を果たすと共に、湘南ペガサスに歴史を築くことに多少は貢献できました。

その後、1 部リーグ戦ではなんとかライバルに食らいつつも 2015 年 2 位、2016 年 3 位と惜しくもタイトルを逃して迎えた 2017 年。若木 新監督の元で順調にリーグ戦を勝ち上がり、新参入の八幡 正憲氏、小松原 高志氏らの大活躍の元、念願の神奈川制覇。湘南高校の多くの関係者に恩返しが出来た瞬間でした。

6. 最後に

充実した 40 代を湘南ペガサスで過ごさせて頂いておりますが、年ごとに自分の身体は悲鳴を上げ、老眼は進み、頭髪は抜け落ちる中、チームメンバの高齢化が進んでいます。また、湘南高校 OB の参戦比率も低下しており、外様メンバーが 5 割を上回る試合も多数です。

未来があってこそ過去の積み上げですので、この駄文を見た湘南高校ならびにトトカルチョ湘南の 40 代を迎える面々の方々は、即座に湘南ペガサス 40 の門を叩いて頂くことを希望します。

また、8 年に渡って共にプレーさせて頂いている同じ年の 65 回生の方々、意図的に名前は全く記載していませんが、日々感謝しております。極めて派手な思い出って訳では無いんですが、ある時期のよき自分の“時代”として、死ぬ前に思い出せる経験ができたかな と感じる今日この頃です。

サッカーは麻薬。これからもこの常習性から敢えて逃れず、過ごしていく覚悟。